

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	在宅医療連携拠点事業に依らない在宅医療推進の例
日時	平成 25 年 3 月 31 日 10 : 00~10 : 10
会場	第 8 会議室
座長	新田クリニック 新田國夫先生
演者	鈴木内科医院 鈴木 央先生
企画趣旨	<p>東京都大田区にある大森医師会は、A 会員数 224 名、居住者約 23 万人の地域における地区医師会である。当医師会では在宅医療を積極的には行っていないものの、数名の在宅患者を見ながら看取りまで看ているかかりつけ医も存在し、在宅看取りの経験がある医療機関は全体の半分であることが分かっている。一方、麻薬の処方が可能な診療所は全体の約の 25%に過ぎず、がん末期等の高医療依存度例への在宅対応を手控える傾向がみられた。</p> <p>本年度、医師会として面の在宅医療普及を目指すべく、在宅医療連携拠点事業に応募したが、不採択であった。このため、別の方法で在宅医療推進を目指す必要が生じ、勇美記念財団より 250 万円の助成を財源として、在宅医療推進策を進めることにした。</p> <p>まず、カナミックネットワーク社による、在宅医療に携わる医師、薬剤師、歯科医師、訪問看護師、機関病院地域連携室、ケアマネージャー、地域包括支援センター、介護事業所などをセキュリティの高いメーリングリスト(クラウド、SSL 対応)の整備を行うことにした。医師 15 人、緩和ケア病棟長医師が 2 名参加し、多数の他職種が参加することになり、情報共有ツールとして稼働を始めた。</p> <p>また、東京大学高齢社会研究機構により千葉県柏市で行われた柏モデルにおける在宅医療動機づけ研修(1.5 日コース)を導入することにした。現在までに 7 名の医師の自発的な申し込みがあり、他職種からも多くの申し込みが来ている。</p> <p>さらに、医師会内で在宅医会を開催する予定である。この中で、気のあった仲間同士で診連携体制が構築することができれば、すでに 2 年前より稼働中の在宅医療連携調整窓口で在宅医療の申し込みがあった場合、診診連携も把握した状態で在宅医を紹介することができると考えられる。</p> <p>現在、メーリングリストの ID.パスワードを発行中であるが、3 月在宅医学会でその成果について発表したい。</p>